

山形県鶴岡市の佐渡小泊産須恵器

春日 真実

はじめに

佐渡市羽茂地区にある小泊窯跡群は9世紀を中心に稼働した新潟県内最大の須恵器窯跡群¹⁾であり、小泊窯跡群で生産された須恵器（以下「佐渡小泊産須恵器」とする）は佐渡島内だけでなく、越後やその周辺にも流通している。新潟県内の佐渡小泊産須恵器の流通状況は近年明らかになりつつあるが、県外の流通状況は不明な点が多い。筆者は昨年度、新潟県の南西部に接する富山県東部の佐渡小泊産須恵器について報告し、流通状況の一端を明らかにした〔春日 2023〕。新潟県北部に接する山形県庄内地方の鶴岡市でも、山田遺跡・西谷地遺跡から佐渡小泊産須恵器が出土していることが川村 尚により報告されているが〔川村 2003〕、新潟県考古学会連絡紙という小冊子への1頁の報告ということもあり、報告遺物中のどれが佐渡小泊産須恵器にあたるのかは明示されなかった。小稿では山形県鶴岡市山田遺跡・西谷地遺跡から出土した小泊産須恵器を示し、小泊窯跡群で生産された須恵器（以下「佐渡小泊産須恵器」とする）の流通状況を確認するとともに、山形県庄内平野南部と越後・佐渡の9世紀を中心とする時期の土器編年の平行関係についても若干ふれる。

佐渡小泊産須恵器か否かの判断は筆者が目視で行った。識別は主に胎土の特徴に拠ったが、ロクロ回転方向も参考にした²⁾。第2～11図の遺物番号は各報告書の報告番号に一致する。佐渡小泊産須恵器の時期表記は筆者の編年〔春日 2019a〕（第1表）を用いる。

資料の閲覧は令和5年12月20・21日に山形県埋蔵文化財センターで行った。資料の閲覧に際し、後藤枝里子・須賀井新人・高桑弘美の各氏からご配慮いただきました。

1 小泊産須恵器を確認した遺跡（第1～6図・第2表）

（1）鶴岡市山田遺跡〔財団法人 山形県埋蔵文化財センター 2001〕

山形県鶴岡市大字山田字油田ほかに所在し、赤川の支流大山川右岸の自然堤防上に位置する。日本海から約4.5km内陸、標高は約13.5mである。1999年（平成11年）に道路建設に伴い発掘調査が行われており、2001年（平成13年）に発掘調査報告書が刊行されている³⁾。報告書には120点の須恵器が報告（図化）されており、小型有台杯2点、無台杯7点、合計9点の佐渡小泊産須恵器を確認した（第2図）。報告（図化）された須恵器に対する小泊産須恵器の割合は約7.5%である。

（2）鶴岡市西谷地遺跡

山形県鶴岡市大字下川字西谷内に所在し、庄内平野西縁付近、庄内砂丘に接する低地に位置する。日本海から約2km内陸、標高は10～11mである。1993（平成5）年に道路建設（第1次調査）・1994（平成6）年・1995（平成7）年には場整備事業（第2・3次）に伴い発掘調査を実施している。

① 西谷地遺跡第1次調査〔財団法人 山形県埋蔵文化財センター 1994〕

報告書には73点の須恵器が報告（図化）されており、杯蓋1点、無台杯5点、合計6点の小泊産須恵器を確認した（第3図）。



1 佐渡市小泊窯跡群 2 鶴岡市山田遺跡 3 鶴岡市西谷地遺跡 4 魚津市仏田遺跡

第1図 遺跡の位置

② 西谷地遺跡第2次調査〔財団法人 山形県埋蔵文化財センター 1995〕

報告書には184点の須恵器が報告（図化）されており、杯蓋5点、有台杯1点、小型有台杯1点、無台杯19点、長頸瓶1点、甕1点、合計28点の小泊産須恵器を確認した（第4・5図）。

③ 西谷地遺跡第3次調査〔財団法人 山形県埋蔵文化財センター 1996〕

報告書には225点の須恵器が報告（図化）されており、有台杯3点、無台杯19点、横瓶3点、甕1点、合計26点の小泊産須恵器を確認した（第6図）。

1～3次調査で報告（図化）された須恵器は482点、佐渡小泊産須恵器の合計は60点である。報告（図化）された須恵器に対する小泊産須恵器の割合は約12%である⁴⁾。

	時期区分	主な資料	共伴した紀年銘資料の年代・陶磁器など
600	1 期古	上越市峪ノ上遺跡 SI1 上越市一之口遺跡 SI17	飛鳥 I (の一部)
	1 期新	上越市延命寺遺跡 SI006 上越市津倉田遺跡 SI417	
	2 期	上越市津倉田遺跡 SI1・53・80・102 田上町行屋崎遺跡	
700	3 期	上越市津倉田遺跡 SI62B・SX97 新潟市秋葉区大沢谷内遺跡 SX945	飛鳥 IV
	4 期	妙高市栗原遺跡 SD25 上越市柿崎区木崎山遺跡 2 号竪穴住居	大宝元年 (701) 上限
	5 期	長岡市八幡林遺跡 A 地区 IV 層 長岡市下ノ西遺跡 SD201 長岡市下ノ西遺跡 SD202 上越市延命寺遺跡 SD1700	養老年間 (717～724) 養老四または六年～天平二年 (720 または 722～730) 神亀二年 (725) 天平八年 (736)
800	6 期	上越市今池遺跡 SK24 長岡市八幡林遺跡 H 地区	
	7 期	上越市滝寺 7 号窯跡 上越市今池遺跡 SK102	年輪年代西暦 775 年 (上限) 壺 G
	8 期	聖籠町山三賀 II 遺跡 SI1320・753 ほか 南魚沼市金屋遺跡 SK3160	京都産緑釉陶器 (軟質)
	9 期	新潟市江南区駒首湯遺跡旧河川 新潟市西区釈迦堂遺跡 IX 層 阿賀野市蕪木遺跡 SD21・32・110 長岡市八幡林遺跡 I 地区上層	天安元～貞観元年 (857～859) 貞観五年 (863)
900	10 期	一之口遺跡 (西地区) SD188 上越市子安遺跡 SI354 牛道遺跡 SE234	光が丘 1 号窯式
1,000	11 期	西部遺跡 SD1377	O-53
	12 期	長岡市門新遺跡 SD152	延長六年 (928)
	13 期	(上越市四ツ屋遺跡 SK63)	虎溪山 1 号
	14 期	上越市一之口遺跡東地区 SD1	丸石 2 号
	15 期	上越市至徳寺遺跡 No. 474 糸魚川市角地田遺跡 SK577・698	明和 27 号・白磁 XI 類

第 1 表 本稿で用いる時期区分と主な資料

2 小泊産須恵器と共伴した土器群

次に佐渡小泊産須恵器とどのような土器が伴っているかみていきたい (第 7～10 図)。第 7～10 図の佐渡小泊産須恵器と判断した須恵器は、報告番号の下または右に「k」を付した。また、西谷地遺跡第 3 次調査 [財団法人 山形県埋蔵文化財センター 1996] の土器群については※印の後ろに挿図番号を記した。西谷地遺跡第 3 次調査 SK822 出土土器 (第 7 図上段) のうち 8～10 が佐渡小泊産須恵器で、いずれも 8 期のものである。また、山田遺跡 SX171 出土土器 (第 7 図中段) のうち 28 も佐渡小泊産須恵器で、8 期のものである。

8 期は、8 期の中でも比較的新相に位置づけられる南魚沼市金屋遺跡 SK3160 に軟質の京都産緑釉陶器が伴っており [公益法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 2023]、先行する 7 期の新相に位置付けている上越市今池遺跡 SK102 にはいわゆる壺 G が伴っている [新潟県教育委員会 1984]。8 期の年代は 9 世紀第

No.	シリーズ 番号	遺跡名	挿図番号	報告 番号	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	出土地点など
1	第 83 集	山田遺跡	第 14 図	26	須恵器	無台杯	129	74	35	SX171F1
2	第 83 集	山田遺跡	第 15 図	43	須恵器	無台杯	127	72	34	SG172F2
3	第 83 集	山田遺跡	第 16 図	55	須恵器	無台杯	122	74	33	SG172F2
4	第 83 集	山田遺跡	第 17 図	78	須恵器	無台杯	(130)	78	38	SG172F1
5	第 83 集	山田遺跡	第 18 図	103	須恵器	無台杯	127	78	36	SG172F1
6	第 83 集	山田遺跡	第 18 図	104	須恵器	無台杯	132	80	35	SG172F1
7	第 83 集	山田遺跡	第 18 図	105	須恵器	無台杯	(120)	76	28	SG172F1
8	第 83 集	山田遺跡	第 20 図	132	須恵器	有台杯	105	67	49	SG172F1
9	第 83 集	山田遺跡	第 20 図	133	須恵器	有台杯	104	58	44	SG172F1
10	第 12 集	西谷地遺跡	第 12 図	3	須恵器	無台杯	142	84	38	SD30F3
11	第 12 集	西谷地遺跡	第 12 図	18	須恵器	無台杯	143	97	26	SK32
12	第 12 集	西谷地遺跡	第 12 図	19	須恵器	無台杯	142	88	32.5	SK32
13	第 12 集	西谷地遺跡	第 13 図	4	須恵器	無台杯		70		SD46F3
14	第 12 集	西谷地遺跡	第 13 図	11	須恵器	無台杯		73		SD61F2
15	第 12 集	西谷地遺跡	第 14 図	4	須恵器	杯蓋				29-70
16	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 26 図	25	須恵器	無台杯	126	65	31	SK270
17	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 26 図	29	須恵器	無台杯	119	70	32	FA-11
18	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 26 図	38	須恵器	無台杯	130	66	28	BA-16
19	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 27 図	41	須恵器	無台杯	122	70	28	SK73
20	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 27 図	48	須恵器	無台杯	130	72	31	SK664
21	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 27 図	50	須恵器	無台杯	156	80	40	SK74
22	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 27 図	53	須恵器	無台杯	127.5	80	25	SK73
23	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 27 図	56	須恵器	無台杯	141	88	29	北 1 面整理
24	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 27 図	62	須恵器	無台杯	120	66		SK664
25	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 27 図	64	須恵器	無台杯	126	72	32	SK73
26	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 27 図	66	須恵器	無台杯	123	63	24	SK73
27	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 28 図	69	須恵器	無台杯	121	75	32	SK242
28	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 28 図	70	須恵器	無台杯	120	64	30	SK65
29	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 28 図	71	須恵器	無台杯	122	72	29	AA-11
30	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 28 図	72	須恵器	無台杯	130	74	27	SK74
31	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 28 図	73	須恵器	無台杯	125	80	32	SP307
32	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 28 図	74	須恵器	無台杯	120	75	28	SK74
33	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 28 図	82	須恵器	有台杯		73		CA-26・31
34	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 28 図	90	須恵器	有台杯	102	65	45.5	SK939
35	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 29 図	107	須恵器	杯蓋	148		26	SK1111
36	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 29 図	113	須恵器	杯蓋	146		32	SK443
37	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 29 図	115	須恵器	杯蓋	142		22	SK65
38	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 29 図	116	須恵器	杯蓋	140		26	SK65
39	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 29 図	117	須恵器	杯蓋	133			北 1 面整理
40	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 30 図	122	須恵器	無台杯	118	65		SK73
41	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 30 図	125	須恵器	無台杯	120	25	31	SK73
42	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 31 図	156	須恵器	長胴瓶	141			SK662
43	第 26 集	西谷地遺跡 (第 2 次)	第 32 図	170	須恵器	甕				北 1 面整理
44	第 33 集	西谷地遺跡 (第 3 次)	第 29 図	8	須恵器	有台杯		78		ST436

No.	シリーズ 番号	遺跡名	挿図番号	報告 番号	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	出土地点など
45	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 29 図	13	須恵器	横瓶				SE773
46	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 29 図	14	須恵器	横瓶				SK308
47	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 30 図	14	須恵器	無台杯	114	75	33	SD366
48	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 30 図	17	須恵器	甕				SD366
49	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 30 図	19	須恵器	横瓶				SD366
50	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 32 図	11	須恵器	無台杯	126	76	31	SD2265
51	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 33 図	20	須恵器	有台杯	138	78	63	SG1001
52	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 34 図	17	須恵器	無台杯	122	75	30.5	SD3006
53	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 34 図	18	須恵器	無台杯	118	75	32	SD3006
54	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 34 図	20	須恵器	無台杯	123	70	29	SD3006
55	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 34 図	21	須恵器	無台杯	125	78	32.5	SD3006
56	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 38 図	8	須恵器	無台杯	124	29	79	SK822
57	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 38 図	9	須恵器	無台杯	124	75	35	SK822
58	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 38 図	10	須恵器	無台杯	128	83	33	SK822
59	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 39 図	9	須恵器	無台杯	120	64	31	SK900
60	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 39 図	10	須恵器	無台杯	125	80	26.5	SK900
61	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 39 図	11	須恵器	無台杯	130	80	32	SK900
62	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 39 図	14	須恵器	無台杯	130	76	31	SK900
63	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 42 図	8	須恵器	有台杯	137	88	60	SK2123
64	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 43 図	3	須恵器	無台杯	122	72	32	立会面セイリ
65	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 43 図	5	須恵器	無台杯	128	78	28	SP_10
66	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 43 図	15	須恵器	無台杯	124	80	32.5	SD1798
67	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 43 図	23	須恵器	無台杯	120	70	34	SP1387
68	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 44 図	15	須恵器	無台杯	122	70	29	SK1851
69	第 33 集	西谷地遺跡（第 3 次）	第 44 図	17	須恵器	無台杯	122	75	30.5	SD2155

第 2 表 佐渡小泊産須恵器一覧

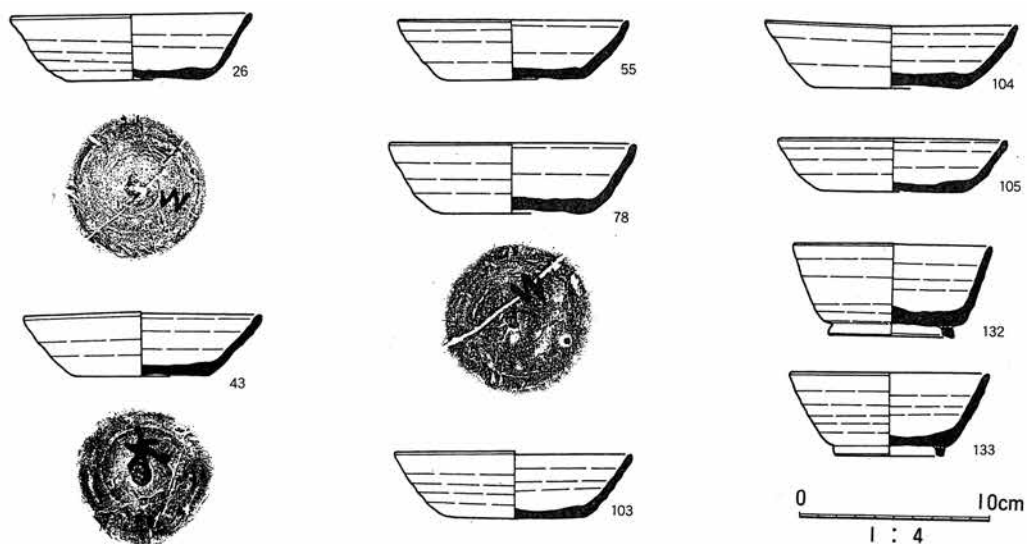
2 四半期を中心とし一部 9 世紀第 1 四半期にかかる時期と考えている。

西谷地遺跡（第 1 次調査）SK32 出土土器（第 7 図下段）のうち 18・19、西谷地遺跡（第 2 次調査）SK65 出土土器（第 8 図最上段）のうち 70・113・116、西谷地遺跡（第 2 次調査）SK73 出土土器（第 8 図上段）の 53 は佐渡小泊産須恵器で、いずれも 9 期に位置づけられる。なお西谷地遺跡（第 2 次調査）SK73 出土土器 122・125 も佐渡小泊産須恵器であるが、破片があまり小さくなく時期を比定するのが難しい。

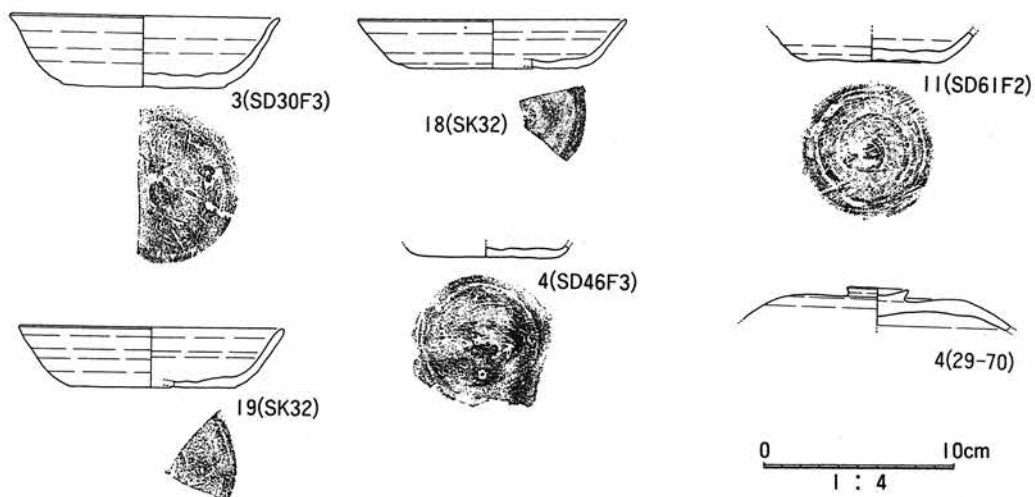
9 期の年代については 9 世紀第 3 四半期頃を考えている。以下その根拠を述べる。

新潟市江南区駒首湯遺跡の旧河川からは、9 期を中心とする時期の土器と三点の習書木簡が出土した。うち一点（三号木簡）には「諸王臣資人」「大納言阿倍大夫殿資人」などの記述がある。「大納言阿倍大夫殿」は、安倍安仁と考えられ、安倍安仁の大納言就任期間は天安元年（857）～貞観元年（859）である〔新潟市教育委員会 2009〕。

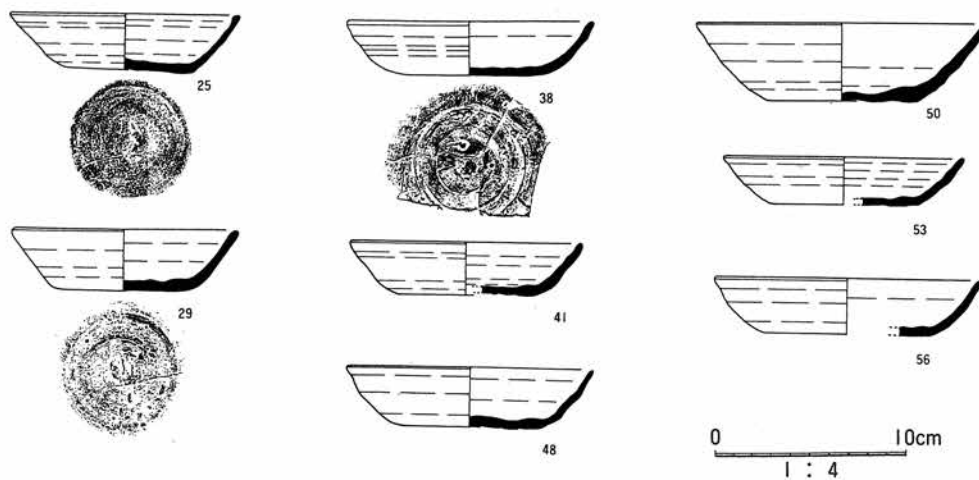
また、阿賀野市蕪木遺跡は液状化の痕跡（噴砂脈）が検出されている。報告書では「噴砂脈は遺構検出面で大きな地割れとなって確認できる。噴砂脈は掘立柱建物 SB 1 を構成するピットのいくつかと重複が見られ、重複か所では噴砂脈が柱痕部の埋土を貫いておらず掘方埋土を通るもの（P 66）や、柱痕部より下部を通過して地上に噴き上がっていないもの（P 358・390）が確認された。以上から、地震の発



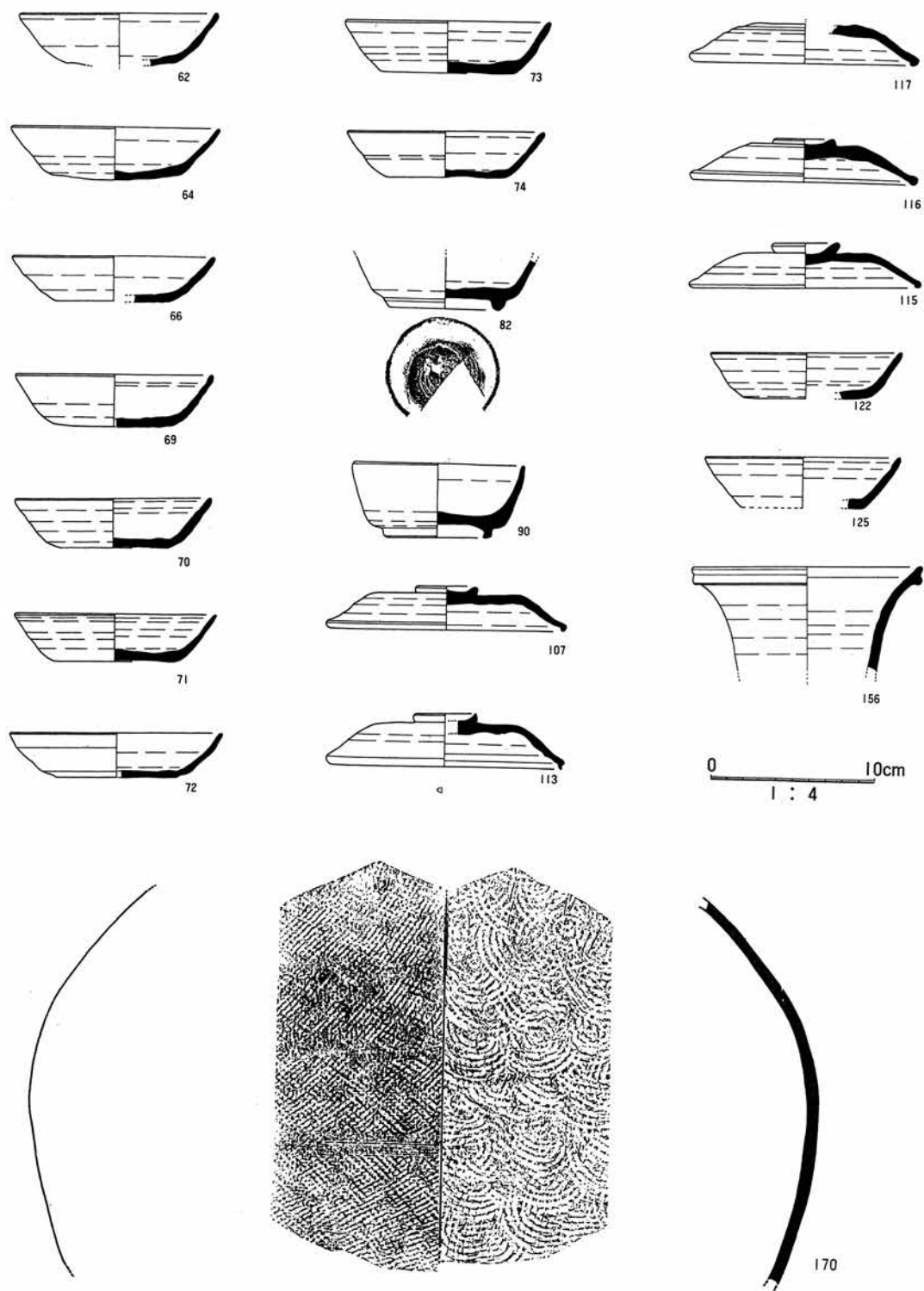
第2図 山田遺跡出土の佐渡小泊産須恵器



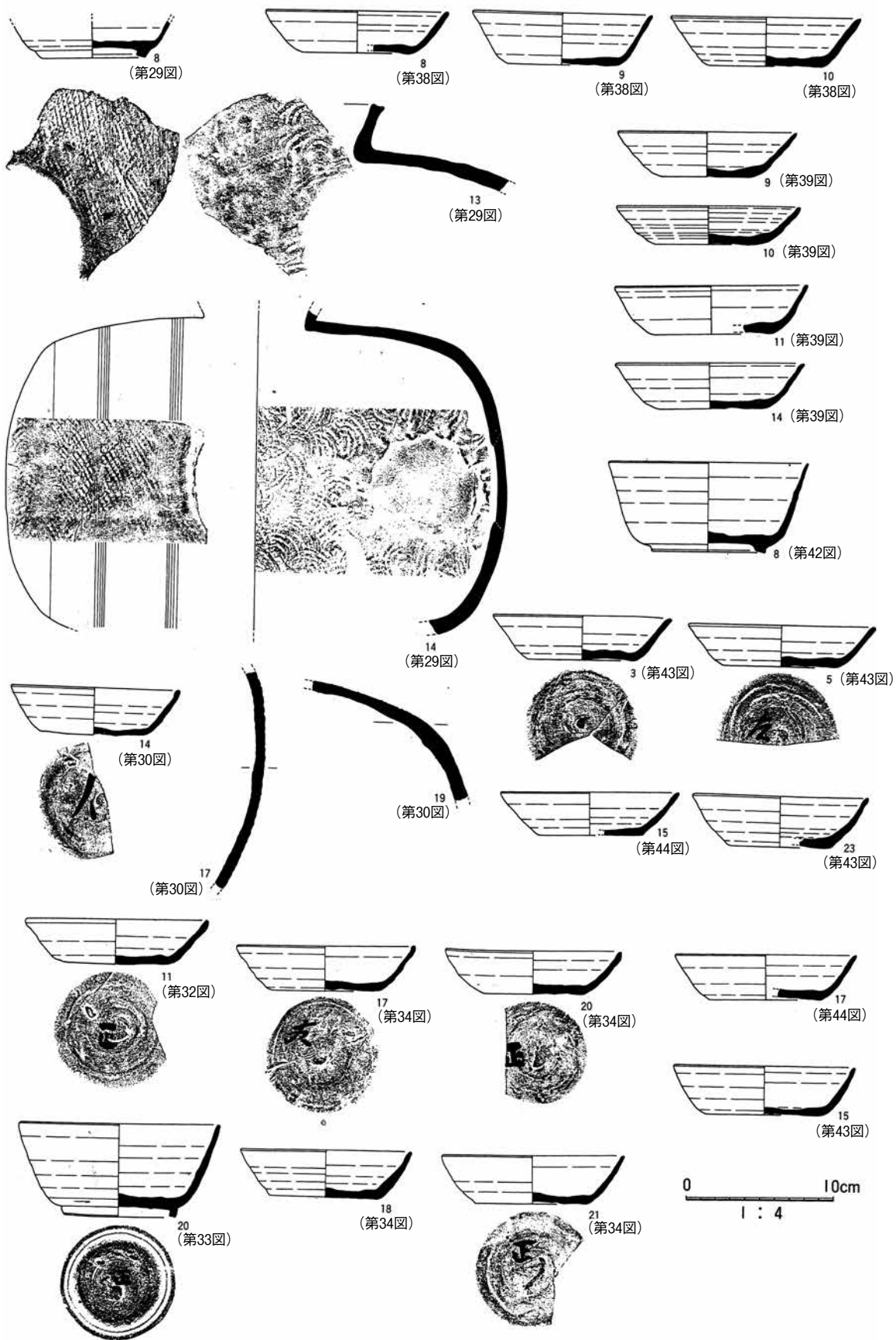
第3図 西谷地遺跡（第1次調査）出土の佐渡小泊産須恵器



第4図 西谷地遺跡（第2次調査）出土の佐渡小泊産須恵器（1）

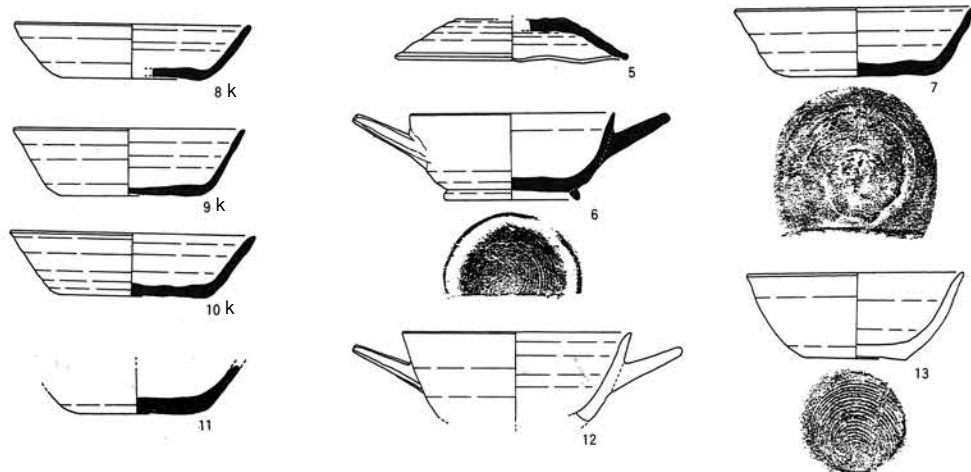


第5図 西谷地遺跡（第2次調査）出土の佐渡小泊産須恵器（2）

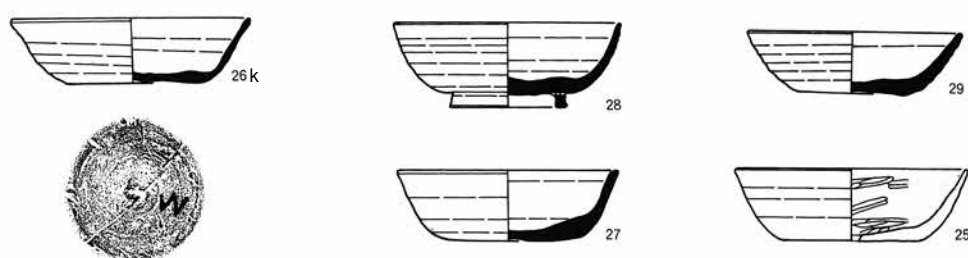


第6図 西谷地遺跡（第3次調査）出土の佐渡小泊産須恵器

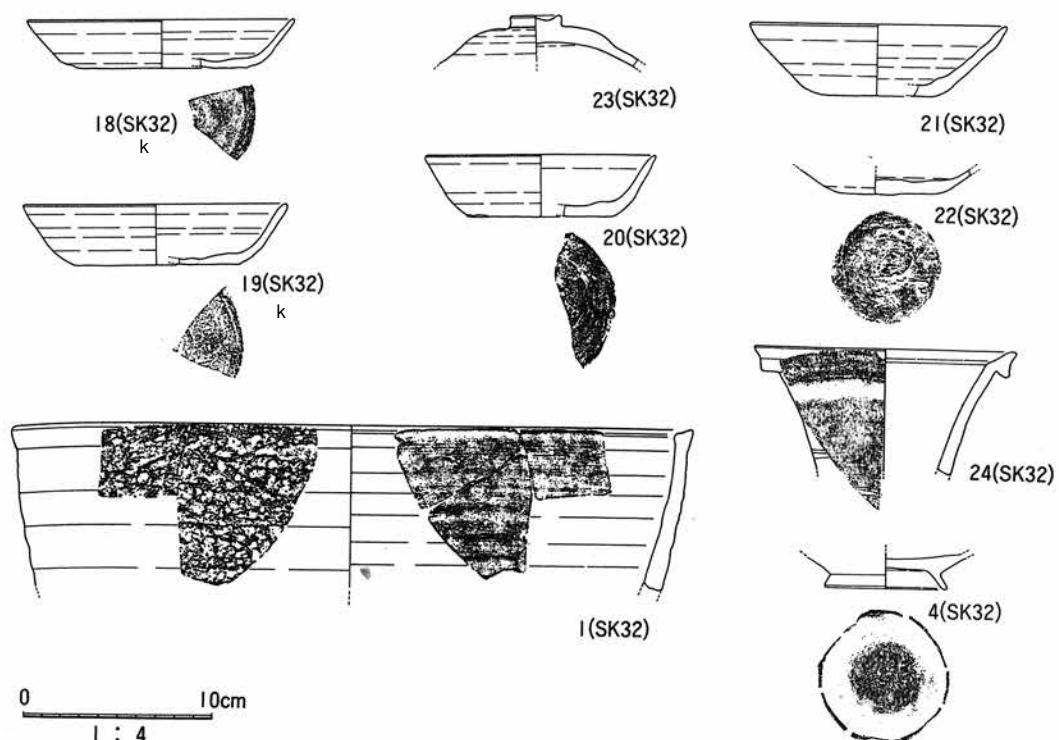
西谷地遺跡(第3次調査) SK822 ※第38図



山田遺跡 SX171

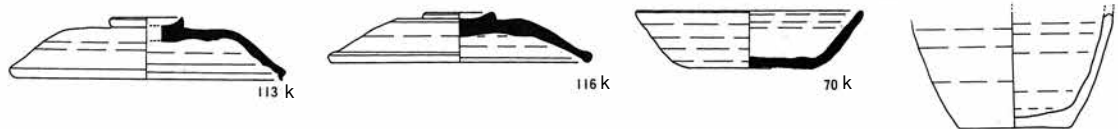


西谷地遺跡(第1次調査) SK32

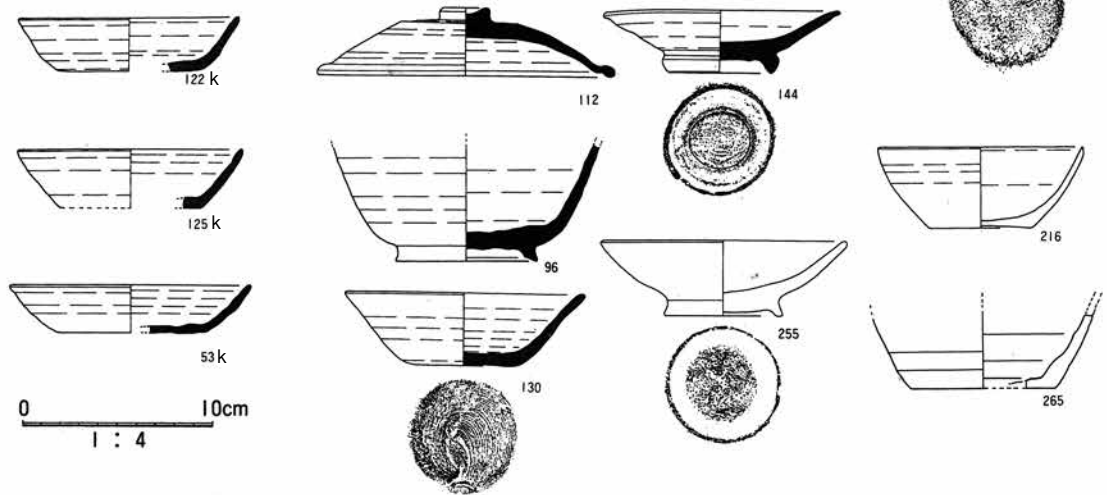


第7図 佐渡小泊産須恵器と主な共伴土器(1)

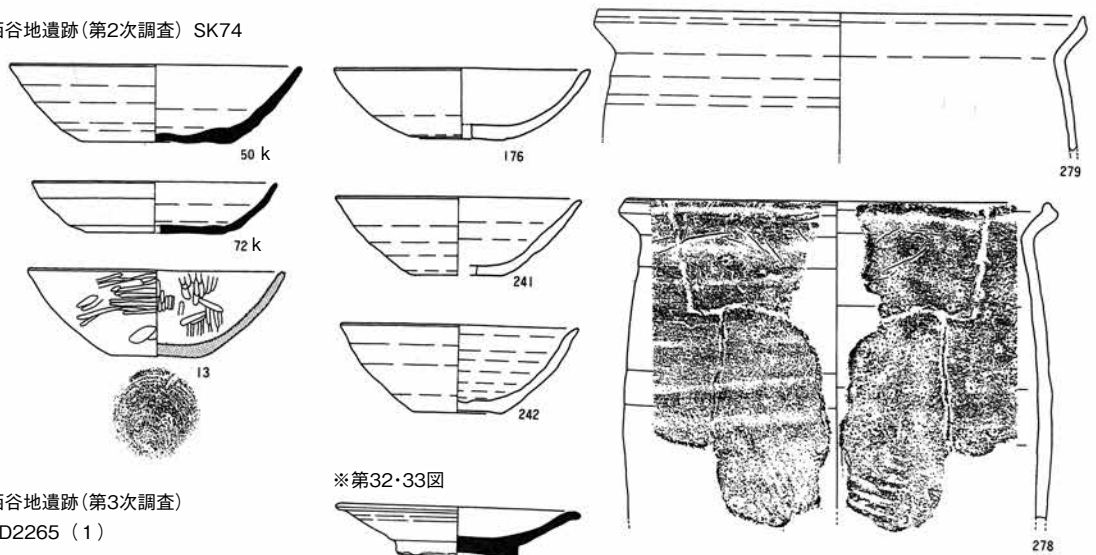
西谷地遺跡(第2次調査) SK65



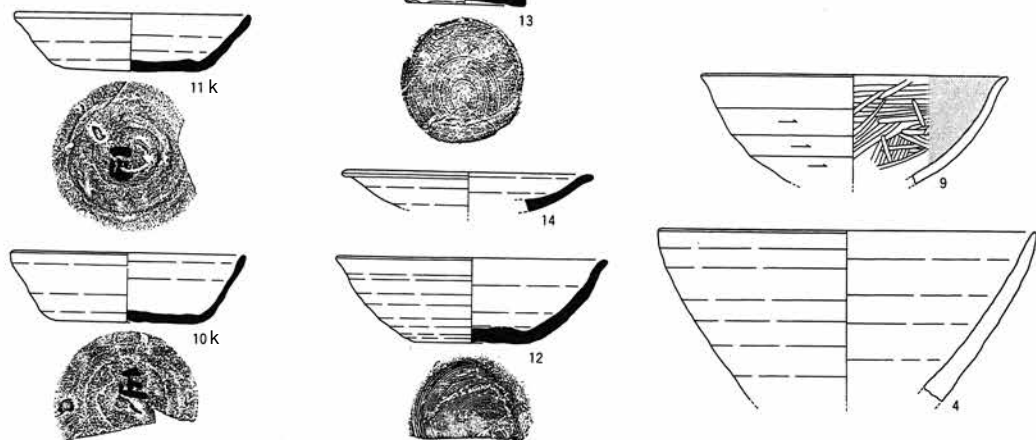
西谷地遺跡(第2次調査) SK73



西谷地遺跡(第2次調査) SK74

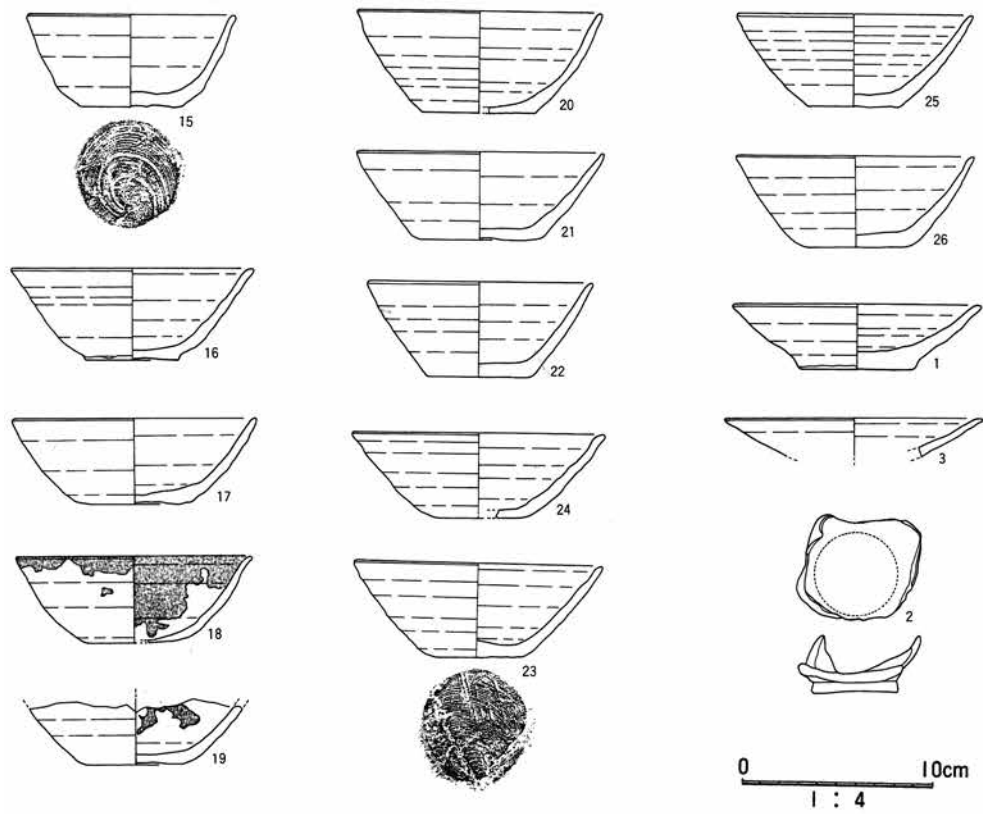


西谷地遺跡(第3次調査)
SD2265 (1)

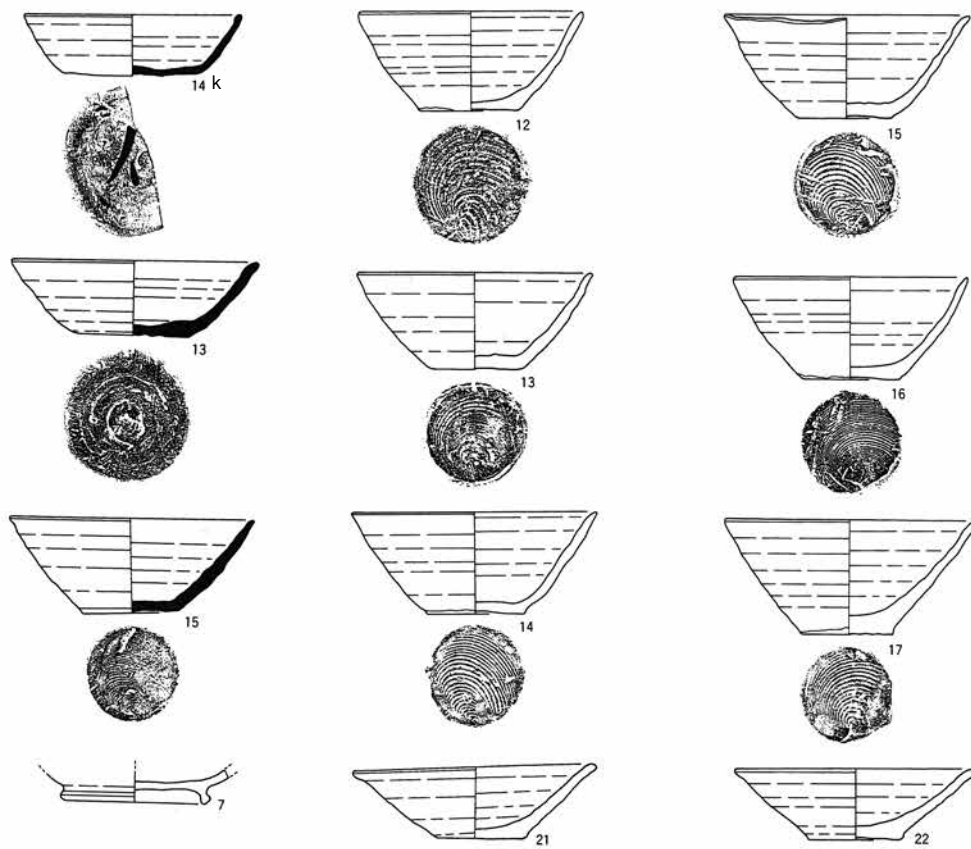


第8図 佐渡小泊産須恵器と主な共伴土器(2)

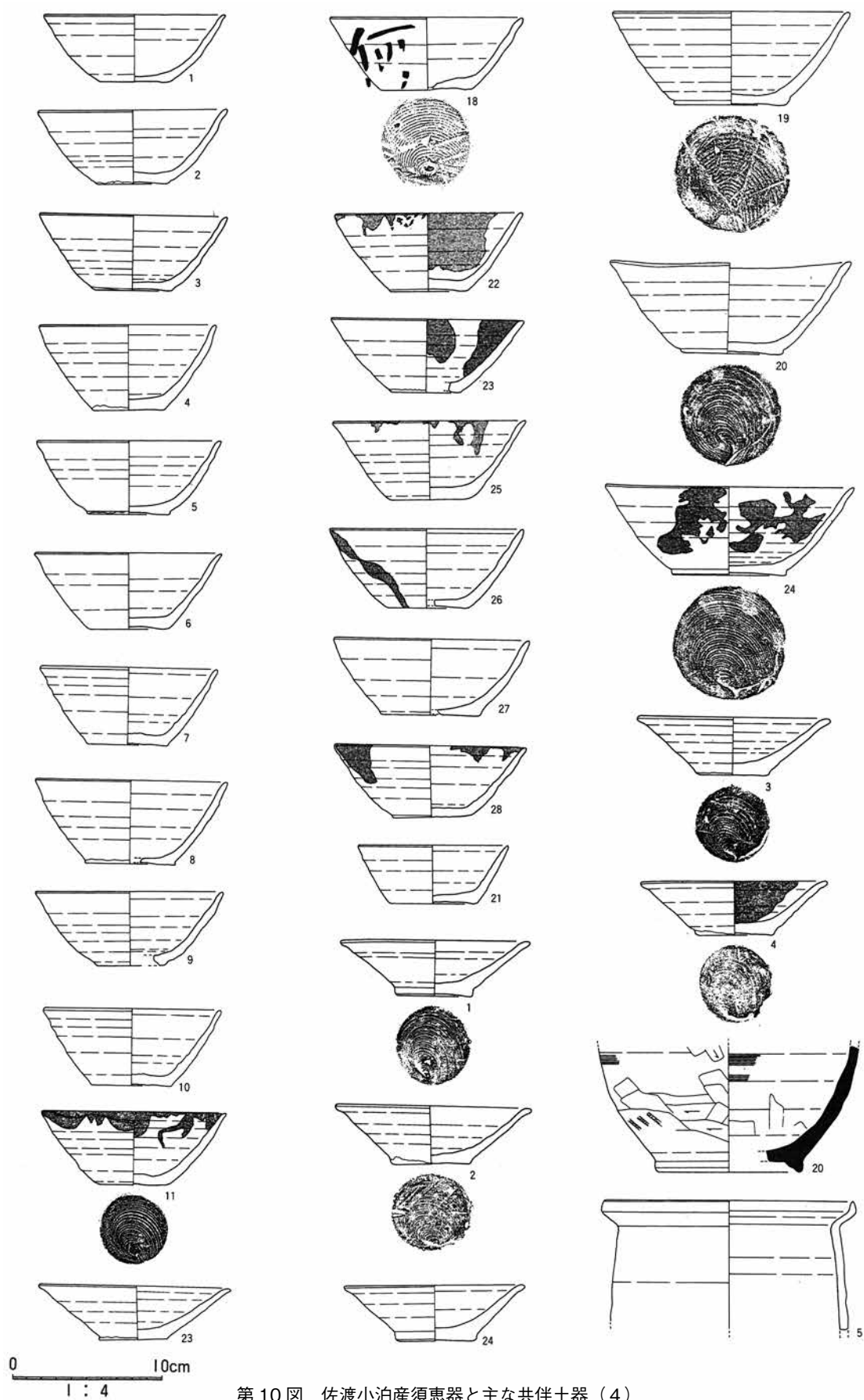
西谷地遺跡(第3次調査) SD2265 (2) ※第32・33図



西谷地遺跡(第3次調査) SD366 (1) ※第30~32図



第9図 佐渡小泊産須恵器と主な共伴土器 (3)



第10図 佐渡小泊産須恵器と主な共伴土器 (4)

生時期は建物が構築されていた時期か廃絶後間もない頃の可能性が高い」[新潟県教育委員会ほか2018]。SB 1の「雨落ち溝」であるSD21・32・110からは9期の土器が出土している。新潟市西区釈迦堂遺跡は5面の遺物包含層（Ⅶa・Ⅷa・Ⅸa・Ⅹa・Ⅺa層）があり、8～10期の土器が出土した。Ⅸa層からは9期の土器が出土しているが、この上面で液状化による噴砂の広がりを確認した[新潟県教育委員会ほか2000]。長岡市八幡林遺跡では7・8期の土器が出土する遺物包含層（Ⅲ層）を覆う整地層の上面で確認された噴砂の広がりの上に位置する包含層（Ⅱ層）から9期の土器が出土した[和島村教育委員会1994]。

『三代實録』貞観五年（八六三）の項には「六月十七日戊申 越中越後等国地震」の記録がある。阿賀野市蕪木遺跡、新潟市西蒲区釈迦堂遺跡、長岡市八幡林遺跡で確認された地震痕跡が『三代實録』に記録された貞観五年（863）の地震により生じた確証は無いが、9期の土器が大規模な地震痕跡と関わることが多い。9期の年代に天安元年（857）～貞観元年（859）と貞観五年（863）が含まれる可能性が高いと考えている。

西谷地遺跡第2次調査SK74出土土器（第8図中段）のうち50・72は佐渡小泊産須恵器で、50は8期、72は10期の可能性が高い。10期の年代は、一之口遺跡（西地区）SD188で10期の土器群に光ヶ丘1号窯式の灰釉陶器皿が伴っており[新潟県教育委員会1986]、先行する9期が9世紀第3四半期頃に位置づけられ、後続する11期の土器群にはO-53並行期の灰釉陶器が伴う例がいくつかあることから[新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団2010など]、9世紀第4四半期頃の年代を考えている。

このほか西谷地遺跡（第3次調査）SD2265出土10・11（第8図下段）、同SD366出土14（第9図下段）も佐渡小泊産須恵器で、3点とも9期のものである。しかし、西谷地遺跡（第3次調査）SD2265・SD366出土土器は、西谷地遺跡（第1次調査）SK32（第7図下段）、西谷地遺跡（第2次調査）SK73（第8図上段）とは土器様相が大きく異なる。9期よりも新しい土器群に混入した可能性が高いのではないだろうか。

まとめ

以上のように、鶴岡市山田遺跡では報告（図化）された120点の須恵器のうち約7.5%に当たる9点の佐渡小泊産須恵器が、同市西谷地遺跡では報告（図化）された482点（第1～3次合計）のうち約12%にあたる60点の佐渡小泊産須恵器が確認できた。確認できた器種は、山田遺跡が無台杯と小型有台杯、西谷地遺跡では杯蓋・大型有台杯・小型有台杯・大型無台杯・無台杯・横瓶・長胴瓶・横瓶・甕が確認できた。また、出土した佐渡小泊産須恵器の時期は8～10期である⁵⁾。

佐渡小泊窯跡群と山形県鶴岡市山田遺跡・西谷地遺跡は直線距離で約100km離れているが、直線距離がほぼ同じで、富山県下では最も多くの佐渡小泊産須恵器が出土している魚津市仏田遺跡[公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2013]などと比較したい。鶴岡市山田遺跡・西谷地遺跡では杯蓋・大型有台杯・小型有台杯・大型無台杯・無台杯・横瓶・長胴瓶・横瓶・甕が確認できたが、魚津市仏田遺跡では杯蓋・無台杯・甕のみ確認でき、横瓶や長胴瓶は確認できない⁶⁾。

庄内平野南部の鶴岡市域では、魚津市域よりもより多様な器種が流通していた可能性が高い。ただし、鶴岡市域で魚津市域より多様な器種が流通した背景については全く検討できていない。また、鶴岡市域は魚津市域よりも多くの佐渡小泊産須恵器が流通している印象を受けたが、これを実証するデータは示せていない。今後の課題としたい。

小稿を2023年（令和5年）4月10日に亡くなれた佐藤利夫先生に捧げます。佐藤先生私が新潟県立羽茂高等学校1年時のクラス担任であり、郷土史クラブの顧問でした。先生はすでに佐渡を代表する民俗学・歴史学の研究者でした。当時の私はそのことは全く知りませんでしたが、佐藤先生とともに佐渡の石臼の調査をしたことは高校時代の思い出として今でも心に残っています。また先生からは、大学進学を勧めていただき、現在の職に就くことのきっかけを作っていただきました。佐藤先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

註

- 註1 瓦も生産している。
註2 佐渡小泊産須恵器はロクロ回転が左回転のものが圧倒的に多い。
註3 山田遺跡については、鶴岡市教育委員会が工業団地造営に伴い発掘調査を行い、発掘調査報告書を刊行している〔鶴岡市教育委員会2002〕。
註4 川村〔2003〕では、山田遺跡で13点、西谷内遺跡で72点（1～3次合計）の小泊産須恵器が確認できたとする。
註5 川村〔2003〕も同様な指摘がある。ただし出土量が最も多いのは9期である。
註6 ただし富山市任海遺跡〔富山県埋蔵文化財センター1993〕では横瓶が出土しており、富山県内（越中国）に横瓶が流通していなかった訳ではない。

引用文献

- 春日真実 2019a「第5章古代・第1節 総論」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
春日真実 2019b「第5章古代 第2節第1項 土師器・須恵器の器種分類」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
春日真実 2019c「第5章古代 第2節第8項 佐渡」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
春日真実 2022「新潟県における年代定点資料」『東国古代遺跡研究会第11回研究大会 古代東国における年代定点資料の検討』東国古代遺跡研究会
春日真実 2023「富山県東部の佐渡小泊産須恵器」『研究紀要』第13号 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団埋蔵文化財調査事業団
川村 尚 2003「山形県庄内地域出土の小泊産須恵器」『新潟県考古学会連絡紙』第58号 新潟県考古学会
公益財団法人 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2013『富山県文化振興財団埋蔵文化財調査報告書第58集 仏田遺跡発掘調査報告書』
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 2023『新潟県埋蔵文化財調査報告書第296集 金屋遺跡Ⅳ 第4・5次調査』
財団法人 山形県埋蔵文化財センター 1994『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第12集 西谷地遺跡発掘調査報告書』
財団法人 山形県埋蔵文化財センター 1995『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第26集 西谷地遺跡第2次・西ノ川発掘調査報告書』
財団法人 山形県埋蔵文化財センター 1996『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第33集 西谷地遺跡第3次発掘調査報告書』
財団法人 山形県埋蔵文化財センター 2001『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第83集 山田遺跡発掘調査報告書』
鶴岡市教育委員会 2002『山形県鶴岡市文化財調査報告書第21集 山田遺跡発掘調査報告書（Ⅰ～Ⅲ・Ⅰ区）』
富山県埋蔵文化財センター 1993『富山県総合公園内発掘調査報告書（3）任海遺跡 吉倉A遺跡 吉倉B遺跡』
新潟県教育委員会 1984『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』
新潟県教育委員会 1986『新潟県埋蔵文化財調査報告書第40集 一之口遺跡（西地区）』
新潟県教育委員会 1989『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 山三賀Ⅱ遺跡』
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2000『新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集 釈迦堂遺跡』
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団他 2010『新潟県埋蔵文化財調査報告書第206集 西部遺跡Ⅱ』
新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2018『新潟県埋蔵文化財調査報告書第277集 蕪木遺跡』
新潟市教育委員会 2009『駒首湯遺跡 第3・4次調査』
和島村教育委員会 1994『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 八幡林遺跡』